

# 文学館だより

令和 6年 4月 1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高 第96号

## 令和6年度始動 今年度も牧水顕彰活動にご協力をお願いします

若山牧水生誕140年、第75回牧水祭、若山牧水記念文学館開館20年来年に控え、今年度はその準備期間と位置づけて活動していきます。



### 【企画展（企画展示室）】

日程	主 な 内 容	
4月～6月	牧水の食	※令和6年度企画
7月～8月	牧水の花鳥風月	※平成29～30年度開催
9月～10月	牧水記念館ができるまで	※令和2年度開催
11月～12月	三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫	※令和3年度開催
1月	榎倉香郵遺作展	※令和4年度開催
2月	第29回若山牧水賞	※10月に発表される第29回受賞者を展示
3月	文学ノート拝見	※令和4年度開催

「これまでの企画展再来」と銘打ち、過去開催してきた企画展を再構成し展示していきます。もう一度観ていただきたいものばかりです。興味あるものはございませんか。

### 【主な事業】

4月～7.31（水）	第14回 春の國若山牧水短歌大会作品募集 一般題詠「問」
12.15（日）	第14回 春の國若山牧水短歌大会表彰式
8.17（土）～18（日）	第14回 牧水・短歌甲子園
9.17（火）	第74回 牧水祭
6.19（水）	第1回 伊藤一彦短歌実作講座
8.21（水）	第2回 伊藤一彦短歌実作講座
11.20（水）	第3回 伊藤一彦短歌実作講座
7月～9月	第13回 高森文夫を偲ぶ詩大会作品募集（市内小4～6年生）
1.19（日）	第13回 高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式

日向市報、若山牧水ホームページ（<https://www.bokusui.jp>）等で随時案内していきます。

## 「三世代のいちごつみ 短歌でつなぐ365日」 学んでいます

令和6年1月1日にスタートした「三世代のいちごつみ 短歌でつなぐ365日」、ご存知の方も多いいと思います。我々が伊藤一彦館長、歌人乃上あつこ氏、歌人久永草太氏の3人が毎日順番に一首を詠みつないでいく短歌リレー。今日の歌は難しい、という日も多い私ですが、三世代3人の歌を毎日楽しく読んでいます。

いとうかずひこ 伊藤一彦	のがみ 乃上あつこ	ひさながそうた 久永草太
○宮崎市生まれ、宮崎市在住。	○横浜市生まれ。	○宮崎市生まれ、宮崎市在住。
○若山牧水記念文学館長。	○2014年から短歌を始める。	○宮崎西高で短歌を始め、牧水・短歌甲子園に出場。
○若山牧水研究家。	○牧水研究会、現代短歌南の会「梁（りょう）」に所属。	○宮崎大学在学中に第34回歌壇賞を受賞。
○1943年生まれの80歳。	○三人の中で唯一のいちごつみ経験者。	○牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなと」に所属。
○昨年度、文学館にて「伊藤一彦展」を開催。	○「三世代のいちごつみ」では母ポジションを務める。	○「三世代のいちごつみ」では孫ポジションを務める。

「いちごつみ」は短歌をリレーしていく遊びのひとつです。前の人詠んだ歌から好きな一語（いちご）を摘んできて、その一語を詠み込んで歌を作る、そしてまた次の人へ、と短歌を詠みつないでいきます。相手の語彙の畑から一語を収穫できるので、普段自分があまり使わないような言葉と出会えることが「いちごつみ」の面白さです。（三世代のいちごつみサイトより引用）

- 1/1 No. 1 八十まで夢の一期を狂ふなく生きて元旦酒もて罰す 伊藤  
 1/2 No. 2【夢】 滔々と灑ぎ入りたる新春の夢、歌、ことば、遊戯のころ 乃上  
 1/3 No. 3【遊戯】 遊戯せる湯気を見上げてとっぷりと肩までつかる朝風呂の朝 久永  
 に始まり、
- 3/27 No.87【甘】 ほどく紐ほどける紐の甘やかにするする桜 始開 さくらはじめてひらく 乃上  
 3/28 No.88【ほどける】 左足ばかりほどけて靴紐に注目獲得行動の春 久永  
 3/29 No.89【左】 火事のごと燃ゆる桜に灼かれつつ身のおぼろなる左党一彦 伊藤

と続いています。4月も楽しみです。  
 初めての方、「三世代のいちごつみ」を一度検索してみませんか。


## 求む！ 牧水顕彰会会員 私たちと一緒に牧水の足跡を後世に伝えていきませんか

日向若山牧水顕彰会は事務局を若山牧水記念文学館に置き、若山牧水の偉業・足跡をより多くの方々にお伝えすることを目的としています。本顕彰会は、昭和26年に結成され、72年という歳月を重ね、一度も途絶えることなく今に引き継がれています。会の目的に賛同される方、会の事業を援助される方は、ご入会をお願いいたします。

【会費】	正会員	年額	1口	1,000円
	賛助会員	年額	1口	10,000円

【特典】

- 1 会員証を発行し、会報「みなかみ」をお届けします。
- 2 若山牧水記念文学館への入館料が無料となります。
- 3 関連行事の案内等、牧水顕彰情報を提供いたします。



会の目的に賛同される方、会の事業を援助して下さる方は加入をお願いします。

## 情報をお寄せください 「うちにこんなもん、あるよ」

「祖母が（曾祖母が）牧水の姉の・・・」から始まり、牧水に縁ある方が来館されたり、牧水ゆかりの話の聞かせてくださったり、などということがここ数年続いています。そこで、牧水について、

聞いたことがある・・・直筆手紙がある・・・若山家からもらったものがある・・・  
 近くに牧水歌碑がある・・・牧水グッズを持っている・・・牧水コレクション・・・  
 うちの父は（孫は）牧水そっくり・・・自作牧水かるた・・・などなど

「うちにこんなもん、あるよ」情報をお寄せください。

情報提供  
 若山牧水記念文学館宛メールにてお願いします  
**bokusui5akugare@gmail.com** 画像添付をお願いします



## 牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

**風光り桜みだれて顔に散るころ汗ばみ夏をおもへる**

かぜひかり さくらみだれて かおにちる ころあせばみ なつをおもえる

明治43年4月詠草。牧水25歳。  
 「いちはやく四月の街に青く匂ふ夏帽子をばうちかづきけり」と並んで、第4歌集『路上』に収録されている。  
 明治43年といえば、3月に牧水編集による短歌誌「創作」が創刊された年である。「創作」は、牧水亡き後も喜志子夫人、長男旅人氏、次男富士人氏に脈々と引き継がれていった。最後は牧水の孫（旅人氏長男）聚一（しゅういち）氏に引き継がれ、令和元年9月、106巻第3号「終刊記念号」をもって通算109年、実質106年の幕を下ろした。